

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2077 号

Incidence and risk factors of severe lacerations during forceps delivery in a single teaching hospital where simulation training is held annually

(鉗子分娩術の重度裂傷の頻度とリスクファクターについて；シミュレーショントレーニングを毎年施行している単一教育施設における検討)

佐野 靖子 (さの やすこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、シミュレーショントレーニングの行われている単一施設での鉗子分娩での重度裂傷の頻度とリスクファクターを報告・検討した論文である。鉗子のシミュレーショントレーニングを取り入れている施設における鉗子分娩の成績に関する発表はほとんどない。本論文では既報に比べても重度裂傷の頻度が低かったことよりシミュレーショントレーニングの有用性が示唆された。また、重度裂傷のリスクファクターとしては児体重や児頭下降度、回旋異常、牽引回数が抽出された。このことから内診での評価が重度裂傷のリスクを推定する上で重要であり、内診技術の向上が合併症を減少させるために重要であると考えた。一方、重度裂傷群においては無痛分娩の導入率が低いことが明らかになり、このことから産科麻酔の導入が鉗子分娩においては会陰裂傷の緩和因子となっている可能性が示唆された。同様の報告は既報にはなく、無痛分娩が会陰裂傷に対し保護的に働く可能性をはじめて明らかにした臨床的に意義のある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。